

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和6年7月23日

釧路市議会議長 様

会 派 名 日本共産党議員団

代表者名 村上 和繁



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	西村 雅人
出 張 先	神奈川県横浜市
期 間	令和6年7月20日 ～ 令和6年7月22日 (3日間)
用 務	第66回自治体学校 i n 神奈川に参加のため
調査 (研修) 結果等の概要	別紙の通り
備 考	7月21日の終了予定時刻が午後4時30分のため、後泊を要した。

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書 (原本) とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

第66回自治体学校 in 神奈川に参加して
2024年7月23日

日本共産党議員団
西村 雅人

令和6年7月20、21日、横浜市において「自治体学校 in 神奈川」に参加してきたので、その内容を報告する。

自治体学校は、「みんなが先生みんなが生徒」というキャッチフレーズで毎年開催されている。「憲法がいきる地方自治の発展へ向けた学びと交流」がサブタイトルになっている。全国から自治体議員、職員、研究者など600人が参加した。

初日の7月20日は、横浜市鶴見公会堂におい全体会が行われた。鶴見公会堂は、JR 鶴見駅前のスーパー西友の上階にある大変交通の便の良い所だった。午後1時15分に開校し、当初は川瀬憲子学校長（静岡大学教授）が挨拶する予定だったが体調を崩されて、代わって記念講演を行う中山徹先生が挨拶をした。その後、現地実行委員長の政村修神奈川自治体問題研究所理事が挨拶した。

挨拶の後は、中山徹自治体問題研究所理事長（奈良女子大学名誉教授）が約1時間の記念講演を行った。演題は「地方自治と地域この1年から考える」であった。中山先生は、戦争できる国づくりに自治体が動員される実態などを振り返り、「今こそ自治と公共性の再生が必要だ」と指摘。「自治体が市民の生活や地域の平和を考えて、国がすすめる戦争できる国づくりに反対していくべきだ。自治体は国の下請けではない。もう一度自治をきちんと確立し、国の悪政から市民を守る立場に立ち返ることが、自治体の最も重要な役割だ」と主張しました。また「地方政治が大きく変わった事例」として、女性の投票率が上がった杉並区長選・区議選、若い世代の投票率が上がった横浜市長選などを紹介。「投票率が上がらずに地方政治が大きく動くことはない。若者や女性に投票を促せるかどうかだ」と指摘しました。今秋、釧路市長選挙が行われるが、この言葉は肝に銘じなければならないだろう。

続いて、フォトジャーナリストの安田菜津紀氏が記念講演を行った。テーマは「紛争地、被災地に生きる人々の声ー取材からみえてきたこと」で約1時間講演した。安田氏は、HBC 番組「サンデーモーニング」のコメンテーター等もしているため、会場の中でも知っている人が多い感じがした。フォトジャーナリストだけあって、紛争地や被災地で撮影した写真を多数紹介してくれた。「現在進行形で命が奪われているのがガザ地区。私たちにはまだできることがあるはずだ。停戦決議を出す自治体（議会）もある。国際社会の一員である日本政府にプレッシャーをかけるのは市民の役割だ」と呼びかけた。

続いてリレートークが行われた。テーマは「地域と自治体最前線」だった。初めに畔上勝彦氏（前自治労連埼玉県本部執行委員長）が、自治労連埼玉県本部における公

共をとりもどす取り組みについて報告。2人目は杉本満氏(いしかわ自治体問題研究所事務局長)が、能登半島地震の実態と課題について報告。3人目は鈴木陸郎氏(横須賀火力発電所建設を考える会共同代表)他が、横須賀石炭火力発電所建設中止と再エネ100%の持続可能な社会をめざす取り組みについて報告した。

その後、次回の自治体学校開催地代表として、山本由美和光大学教授が「次回は来年7月26、27日に東京で開催するので、是非参加を」と呼びかけた。初日の最後は、小山国治実行委員長(自治労連副中央執行委員長)が全大会終了の挨拶をして、午後5時30分前に初日が終了した。



講演する中山徹先生



講演する安田菜津紀先生

2日目の7月21日は、分科会が開かれた。私は現地分科会 B「再編強化進む神奈川の基地めぐり」に参加した。沖縄に次ぐ基地県と言われる神奈川では、安保3文書の改訂後、基地の強靱化計画のもとで急速に再編強化が進んでいる。揚陸艇部隊が新設される横浜ノースドッグ、原子力空母の母港50年の横須賀海軍基地、米陸軍作戦司令部が置かれているキャンプ座間などを見て平和な日本を築く運動の交流が目的に開催された。

まず午前9時に横浜駅に集合。総勢40人があつまりチャーターしたバスに乗り込んだ。最初に横浜市内にある基地、横浜ノースドッグをバスの中から視察した。物資の陸揚げを目的にした軍港で、横浜市内にありながら未だに返還されていない基地があることに驚いた。続いて横須賀基地が見られる、横須賀ヴェルニー公園と安針台公園に行き、バスから降りて視察した。浮上した潜水艦が目撃できた。続いて座間キャンプに向かった。バスを降りて近くの公園から視察をした。基地の中に星条旗、日の丸の他にもう1つの旗が掲揚されていた。ガイドが説明してくれて、国連軍の旗とのことだった。座間キャンプは国連軍とも地位協定を結んでいて、国連軍が出動する事態が起きるとここが拠点になるとのことであった。続いて厚木基地向かった。厚木基地周辺はバスの中からの視察となった。厚木基地周辺は米軍機からの爆音で有名であるが、住民が裁判で勝訴しても賠償金は日本政府が出している。極めて理不尽なことである。

最後に大和駅プロムナードでオスプレイ配備反対集会が行われていたのでそれを視察した。地元の地方議員らも多数参加していた。墜落原因がはっきりしないオスプレイがまた配備されるとなると地元住民の不安は計り知れないものである。これらの日程を終えて午後4時30分に横浜駅に到着した。これらを1日で周ったので駆け足だったが実りある視察だった。ガイドを引き受けていただいたそれぞれの地元の平和委員会の皆様には心から感謝申し上げたい。

以上



横須賀基地の潜水艦



国連軍旗もたなびく座間キャンプ



オスプレイ来るなと怒りの抗議行動